

平成27年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成27年4月～平成28年3月

1. 学校概要

学校名 宇城市立海東小学校
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 中高一貫教育 高等学校
 教員養成 技術/職業教育
 特別支援学校 その他 ()
所在地 〒869-0612
熊本県宇城市小川町南海東2050番地
E-mail kaitousyo-d@tsubaki.higo.ed.jp
Website <http://es.higo.ed.jp/kaitou/>
児童生徒数 男子 51名 女子 35名 合計 86名
児童・生徒の年齢 7歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

- 1, 2年生 (生物多様性、平和・人権)
 - 4～9月 学校にいる生き物をさがしふれあう
 - 9～10月 地域の川「砂川」で生き物を見つけふれあう
見つけた生き物を飼ってみる
 - 7, 11, 3月 地域の老人介護施設を訪問、お年寄りとの交流体験
- 3年生 (食育、環境)
 - 5月 地域の特産品「ショウガ」の植え付け
 - 6～9月 ショウガの世話 (水やり、草取り)
ショウガについての学習 (産地になった訳、ショウガ農家の苦勞、JA貯蔵庫の仕事、成長の仕組み、ショウガの効能等)
 - 11月 収穫、給食への提供、他の学年へのプレゼント
 - 1月 調理、会食 (PTA行事)
- 4年生 (食育、環境、生物多様性)
 - 5月 ホタル観賞
 - 9月 河川学習 (出前授業) による川の調査
 - 10月 ホタルについて、地域へのアンケート調査
 - 11月 川の調査 (カワナ観察)
 - 12～3月 野菜の栽培、収穫と調理 (ダイコン、ニンジン)
- 3, 4年生 (平和・人権)
 - 5～9月 支援学校との交流 (6, 9月に松橋支援学校を訪問)
- 5年生 (食育、環境、平和・人権)
 - 〈米づくりをとおした学習〉
 - 5月 稲の苗作り、運動場の隅で育苗 (水やり、観察)
 - 6月 学校田に田植え
 - 6～10月 学校田の観察、草取り、リモコンヘリによる薬剤散布見学、GTへの聞き取り
 - 10月 稲刈り
 - 12月 もちつき大会への米の提供、餅つき、地域の方との交流
 - 〈環境学習〉
 - 9～1月 水俣病や環境についての学習 (県環境センター、水俣病資料館、語り部さんからの聴講)
出前授業による水の学習 (地域の川の水質調査、各家庭の飲料水調べ、市販された水の飲み比べ等)
 - 11月 学習発表会や地域の人権フェスタでの発信
- 6年生 (平和・人権、環境)
 - 7～9月 修学旅行で訪れる長崎について調べる。
原爆がもたらした被害や人々の願いを知る。
語り部さんからの講話
 - 9～3月 地域の川の観察、土地の成り立ちの学習、水の循環の学習等から視野を広げる。理科と総合で実施
- 5, 6年生 (環境)
 - 2月 河川学習 (実際にバスで二つの川の様子を見学)

○共通実践（伝統文化）

11月 小川凧づくり

地域の保存会から指導してもらい親子で製作、凧上げ体験

（2）活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（ PTA 活動で休日に実施 ）



小川風保存会から講師を招いて行った親子活動(凧づくり)の様子 (2015/11/15)



出前授業による河川学習の様子 (2015/9/15)

教育目標

和

「我が故郷を愛し、『徳・知・体』の調和のとれた、豊かな人間性と実践力を備えた『海東っ子』の育成」

文責 宇城市立海東小学校 今村誠之



河原の岩石、露頭の地層、動植物の化石、etc.自然には数千万年前、数億年前の当時の環境を想像できる痕跡が残されています。これまでの研究の結果を踏まえ、新たな痕跡を利用しながら想像力を働かせるのは、以外と面白いものがあります。人類が生存していなかった時期の自然環境を想像するというのは、ワクワクする楽しさを味わえます。考古学とは比較にならない壮大なスケールの視点での想像力が発揮できます。

理科学習、環境学習を含めた総合的な学習として、教頭先生の指導で5・6年生が河川学習を行いました。御船町恐竜博物館にも立ち寄りました。子ども達には学問的な関心は高くないかもしれませんが、野外での現地学習の記憶が少しでも残ればいいかなと思います。

応援あったから...

2月22日付け熊日新聞夕刊に「応援あったから頑張れた」の記事が記載されていました。東日本大震災から5年が経過しようとしています。今の状況を教えてください。宮城県気仙沼市に住む、当時小学校4年生だった松本魁翔（かいと）くんは4月から高校生になります。小学校4年生の子どもがこれまで頑張ってきたのは、家族等の支えがあったからこそというのは勿論のことですが、「応援してるね」「負けないで」等の全国から届いた励ましの手紙やはがきがあったからだそうです。

ただ、現在も仮設住宅で不自由な生活を送り、多くの同級生等を亡くし悲しみが癒えない精神状態の中で、ひたむきに頑張る姿勢には頭が下がるばかりです。

新聞には家屋等の瓦礫が山積する中を水運びする当時の写真と高校入学を間近にした現在の写真があります。この写真からは本人の頑張りや逞しく成長した姿が表現されていますが、心の奥底にある震災の恐怖心や苦悩、悲しさ、将来への不安といったものも感じます。これは私だけでしょうか。（写真を見ないと何とも言えないですね。）

勿論、私も「頑張っているね、応援しているよ」「これからも前向きに努力して行ってね」...とメールを送りたいと思っています。ただ、直接災害に遭っていない、遠い所にいる人間として、慰め的で無責任な言葉はかけられません。気持ちだけでは全てがうまくいくわけではありません。

せっかくこれから明るく生きていこうという希望ある記事なのに、暗い思いにさせてしまうようで申し訳なく思います。当たり前な生活を送れている私たちに出来ることは何かを考えて欲しいのです。

私たちは本当に恵まれています。やろうと思えば何でもできるのです。魁翔くんのためにも頑張らなくてはいけないのではないのでしょうか...

3年親子料理で生姜焼きを作りました。地元特産の生姜を使い、最高に美味しい出来上がりでした。



目標に近づいたか？

平成27年度も残り34日となりました。今の学年になって、気持ちも新鮮な時に設定した目標の達成はどんな段階でしょうか？「えっ！自分の目標を覚えていない!？」こんな人もいます。大変失礼ですが、このような人は、今後も同じことの繰り返しで人生を過ごしていってしまうのではないかと不安になります。そして、残念に思います。自分の努力度を自分で把握できていないと、達成困難な目標を設定してしまいがちです。

小学生も3、4年生になれば自分の努力度が分かると思います。但し、それまでにしっかりと努力する態度と実践力が身に付いていないといけません。皆さんは如何でしょうか。毎年度なかなか目標達成に近づけていない人は、まずは自分の努力できる力（努力度）を知る努力をして欲しいものです。